



APAQGデンパサール会議について

1. はじめに

APAQGデンパサール会議が、2013年3月20日～22日にインドネシアで開催された。JAQGは、APAQGのリーダーとして、APAQG活動を通じて日本の意見をIAQGに提言することを視野に入れて活動を推進している。

以下に今回の会議について報告する。

APAQG : Asia-Pacific Aerospace Quality Group
JAQG : Japanese Aerospace Quality Group

2. 会議の概要

近年アジア地区においてMRO（整備、修理及びオーバーホール）産業活動の活発化に伴いAPAQGへの参加希望が相次ぎ、2012年は、GMF AeroAsia（インドネシア）が参加し、さらに1社（シンガポール）が参加の意向を示している。

今回のAPAQGデンパサール会議には、アジア太平洋地域の航空宇宙関連18組織から約50名が参加した。

中国からは、今回からBoeing Tianjin Compositeの2名が参加し、インドネシアからは、ホスト会社のIAeより14名、GMF AeroAsiaから3名が参加するなど、新たなメンバーも加わり活発な議論が交わされた。会議ではIAQGで検討している規格改正（*1参照）や法人化移行に向けての検討等の活動状況についての情報の共有を図るとともに、次回IAQGモスクワ会議に向けて意見の集約、さらに、APAQG

活動を活性化するための方策に関しての協議を実施した。

参加国、参加組織は以下の通りである。

< >内は参加人数

日本：MHI<4>、KHI<2>、FHI<2>、
IHI<2>、MELCO<1>、SJAC<2>

インドネシア：

IAe<14>、GMF AeroAsia<3>、
DGCA（Directorate General of Civil
Aviation:インドネシア航空局）<1>、
IAMSA(Indonesian Aircraft Maintenance
Shop Association)<1>

中国：AVIC<6>、HEAI<1>、
Boeing Tianjin Composite<2>

韓国：KAI<2>、KAL-ASD<1>

台湾：AIDC<2>

シンガポール：

DSO（Defence Science Organization）
<1>

P&W Singapore工場<1>（オブザー
バ参加）

- *1) 9100：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項
9101：航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する審査要求事項
9102：航空宇宙 初回製品検査要求事項
本規格の改正検討状況については、本会報2012年11月号の記事「IAQG名古屋会議について」を参照されたい。



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

3. 会議内容

(1) 評議会の主要な審議結果等

評議会での主要な審議結果等は以下の通りである。

- ・セクターリーダー（伊藤直彦（FHI））よりIAQGの法人化に向けてのIAQG内での調整状況及び、関連するIAQG設立定款

及び運営規約の最新案について報告された。

- ・セクターリーダーの交代が承認された。（伊藤直彦（FHI）→寺境弘之（MHI））
- ・APAQGの会計報告に関し、FY2012決算とFY2013予算が承認された。
- ・APAQGが担当となっている2015年春の

IAQG会議開催国について協議を行った。中国又は韓国開催の方向で調整したが継続調整となった。

- ・ APAQG活動の活性化については、IAQG/APAQG活動に対する期待や活動アウトプットを如何に各社で活用していくか等について、事前検討した内容をベースに各メンバー会社から説明を行い協議を実施した。APAQG会議の重要性を再確認するとともに今後も継続協議することとした。
- また、上述のMRO産業活発化に伴い、次回APAQGシンガポール会議からAPAQG MROワーキンググループ（WG）を設置し活動開始することとした。
- ・ 今回新たにシンガポールのP&W Singapore工場からAPAQGへの入会希望があり、会社の状況と入会の目的を説明して貰った。しかしながら、P&WはUTCの傘下で既にアメリカセクター（AAQG）のメンバーとなっていることから、P&W現地工場（事業所）へのAPAQGメンバーシップ付与の是非が議論となり、会議への継続参加は認められたが、現APAQG規約の見直しを含めて継続審議となった。

(2) 各国のステータス報告

評議会では、各国のステータス報告を行った。

日本：JAQG幹事長代理（北森直樹（KHI）より、JAQG活動概要を報告した。特別案件としてはJAQG戦略検討委員会の重点活動である「強固な品質マネジメントシステム構築の検討」につき状況を報告した。

中国：AVICをリーダーとして、2012年10月に活動を開始したCAQG（China Aerospace Quality Group）の活動状況が報告された。CAQGは11社で構成され、各社がWGを分担して活動を展開していることが報告された。CAQGの組織を図1に、各社の役割分担を表1に示す。

韓国：自国企業の認証は、主にAS9100/9110/9120によっており、韓国のAS9100認証取得会社173社は全てAS9100C（2009年版）へ移行済。また、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ5社、2社となっていることが報告された。

台湾：AIDCのサプライヤ管理の概要について説明があった。製造ノウハウの共有、ウェブによる迅速な不適合処理&是正処置、品質レビュー会議開催などを実施している。主要なサプライヤ26社はAS9100Cへ移行済であり、新たに8社がAS9100Cを取得予定である。また、AIDCは品質管理ソフ

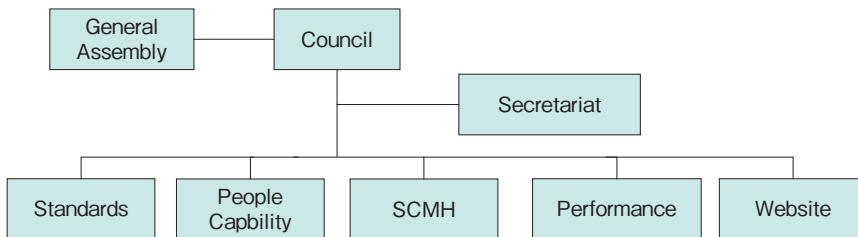


図1 CAQG組織

表1 CAQGの役割分担

| | 対応組織 | 担当項目 (WG、規格等) |
|----|---------------------------|--|
| 1 | AVIC | SWG (Strategy Working Group), PCAP (People Capability) |
| 2 | COMAC | SCMH |
| 3 | Secretariat (CAQG事務局) | 9100, 9101, 9137, CAQG website and communication |
| 4 | COMAC | 9120, 9110 |
| 5 | COMAC | 9102, 9107, 9114 |
| 6 | COMAC | 9133, 9116 |
| 7 | AVIC Aircraft Co. | 9103, 9134 |
| 8 | AVIC Aero-Engine Co. | 9131 |
| 9 | AVIC General Aircraft Co. | 9104-1, 9104-2, 9104-3 |
| 10 | AVIC Avionics Co. | 9115 |
| 11 | AVIC M&E Co. | 9132 |
| 12 | Boeing Tianjin Composite | performance |
| 13 | Harbin Embraer | 9117, 9162 |

トウェアとして、各種レポートが簡単に作成管理できる「Net Inspection」を導入しており、その紹介があった。

(3) IAQG戦略検討ワーキンググループ傘下の分科会の活動報告

評議会では、各分科会の個別報告が行われた。()内は報告者(敬称略)である。

このセッションはIAQG会議に参加していないAPAQGメンバーに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。今回は、2012年10月に開催されたIAQG名古屋会議の結果及びその後の進捗を中心に報告された。なお、IAQG名古屋会議内容については、本会報2012年11月号を参照されたい。

- ・IAQG改善戦略各分科会の活動報告
 - －規格要求分科会(白井 達矢(KHI)、河本 正博(MHI)、大野 純平(MHI))
 - －製品及びサプライチェーン改善分科会(岩垂 素子(MHI))

- －要員能力分科会(小薬 正幸(IHI))

- ・IAQG関係強化戦略各分科会の活動報告
 - －国際スペースフォーラム(尾形 慶照(MELCO))
 - －航空当局(製造)関係強化分科会(河本 正博(MHI))
 - －防衛当局関係強化分科会(河本 正博(MHI))
 - －MRO関係強化分科会(Azmi Fuadi(IAe))
- ・国際航空宇宙認証制度管理チームの活動報告(小森 秀司(FHI))

4. インドネシアの航空産業の概要

インドネシアは、人口が約2億4千万(うち50%が29才以下)で、高い経済成長率(2012年: 6.3%)を維持しており、ASEANを主導する東南アジアのリーダー国家である。北米大陸に匹敵する東西に長い(5,110km)国土を有し、約18,000もの島々よりなる群島国家のため、航

空輸送は公共交通の有力な手段であり、また経済開発に不可欠である。航空機の国内供給力の整備を図るとともに、他工業への技術力波及、勤労者モラル・近代経営の確立、国威の発揚など様々な効果の発現を目指して、航空機工業の育成に努めている。このため1976年に大統領令12号に基づく航空機工業育成政策が設定され、次いで1983年には大統領令で設置された「戦略産業委員会」の中で、航空機は鉄鋼・造船・通信・兵器など9つの重点分野の一つとして戦略産業に指定された。

最近の動きとしては、2012年9月にボーイング社がインドネシア政府とインドネシアの民間航空の安全性、効率性、航空宇宙産業の発展に協力する覚書に署名し、積極的に技術協力を行うことになった。

インドネシアの航空路線を図2に示す。87

都市を結ぶ183路線があり、今後も航空輸送の需要増加が見込まれている。定期運航を支えるMRO産業も活発で、72社があり、内28社がIAMSA（Indonesian Aircraft Maintenance Shop Association）のメンバーとなっている。MRO企業の大半は、首都ジャカルタのあるジャワ島に本拠を置いて活動している。

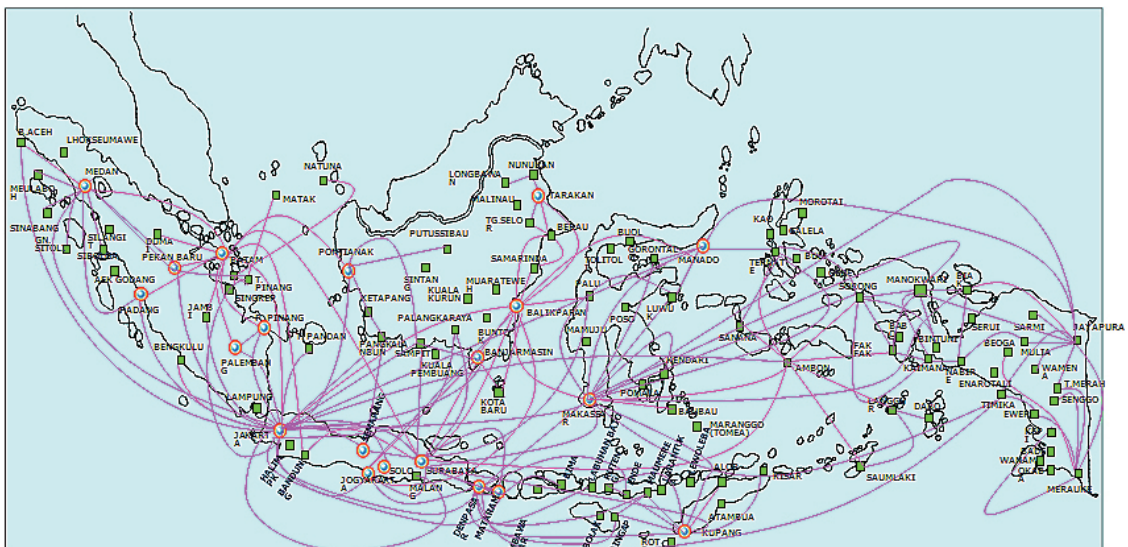
航空機製造については、今回APAQG会議のホスト会社のIAeが国内唯一の航空機メーカーである。主な活動は、航空機の製造並びにエアバス社、ユーロコプター社及びインドネシアのMRO企業に対して、航空機用部品の製造販売を行っている。

IAeの概要は以下の通りである。

IAe概要

設立：1976年

従業員数：約3,700人



- ❖ 87都市を結ぶ183路線
- ❖ 定期運航会社16社
- ❖ 233の空港：国内(204)、国際(29)
- ❖ 5つの主要国際空港：Medan, Jakarta, Surabaya, Makasar, Denpasar

図2 インドネシアの航空路線

本社（ジャカルタ市）：本社機能
バンドン工場（バンドン市）：
設計製造、整備修理、エンジン整備・
修理、R&D

主要製品

固定翼機：CN235-220 MPA、
NC212-200、C212-400
回転翼機：BELL 412 EP、
NAS332 SUPER PUMA
民間機（構造部分品）：
A380主翼前縁（内舷側）、
A320/321主翼前縁、等

5. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジ

メントシステム規格(9100規格)を初めとする
関連規格の制定に加え、“On Time, On-Quality
Delivery (OTOQD)”を効率的に達成するこ
とを目標に活動を展開している。

今回のAPAQG会議には、全てのメンバー
国からの参加があった。アジア太平洋地域に
IAQG活動を広めかつアジア太平洋地域の意
見をIAQGに反映させるためには、APAQG活
動を活発化させ、多くのアジア太平洋地域の
メンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG
会議に参加し、Face to Faceで議論をすること
が重要である。

今後もJAQGは、APAQGのリーダーとして
APAQG活動を牽引し、日本の意見をIAQGに
提言する活動を推進する所存である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 菅野 義就〕